

令和2年を迎え

beyond2020と日本のありかたを聞く

青柳正規氏（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会）
文化・教育委員会委員長

Flügel abend 2019、未来へ羽ばたけ、大阪文化力、

トップインタビュー 企業と文化

阪急阪神ホールディングス株式会社

代表取締役会長グループCEO 角 和夫氏

助成事業の紹介  日本万国博覧会記念基金

開催レポート

- ・大阪キャッスルマーチング
- ・日本の文化に親しむ「源平の雅」
- ・アートストリーム2019

令和2年を迎え
beyond2020*と日本のありかたを聞く



公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 文化・教育委員会 委員長
奈良県立橿原考古学研究所 所長
多摩美術大学理事長
前文部科学省文化庁長官

あおやぎ まさのり
青柳 正規 氏

「日本は新たな国づくりの段階にきている」という青柳氏。その意味で、奈良県立橿原考古学研究所の所長として、日本の国づくりに取り組んだ古代人の気概に触れられるのはとてもありがたいという。令和になって最初の新年を迎えた今、私たちはどのような気構えで日本の将来を考えればいいのか。青柳氏にその考えを伺った。

*beyond2020…2020年以降を見据え、日本文化の魅力を発信するとともに、日本の強みである地域性豊かで多様な文化を活かし、次世代に誇れるレガシーの創出をめざす取り組み。

近未来へ一歩先んじた大阪

私は2019年8月に奈良県立橿原考古学研究所の所長に就きました。ギリシャ、ローマの考古学が専門の私に務まるのかと思いましたが、来てみると、とても面白いことが分かりました。古墳時代から奈良時代にかけて、奈良は日本の国づくりを主導したところですが、古事記や日本書紀にも記述されており、当時の人たちが新しい国をつくる意欲にあふれていたことがよく分かります。

先ほど、橿原から大和八木で乗り換え、鶴橋から大阪へ向かう、その電車の中で、ふと感じたことがあります。大阪に近づけば近づくほど、何か違うのです。何が違うのかずっと考えてきたのですが、東京と比べて大阪の方が、一歩、日本の将来に近づいているような気がしました。社会の活力が低下する時代が来ても困らないように今から準備しておくべきですが、その

意味で、大阪は東京より一歩先んじていると思いました。歴史的にも個人の生活を大切にしている大阪の人は、社会・経済の閉塞感を敏感に察知して、自らの生活欲求を抑制し、身の丈にあった幸せを求める生き方をしはじめていたように感じたのです。人口が減り、経済が縮小する時代にあっても、心地よく暮らせる社会環境をつくっていかうと知恵を絞っているのですが、それが「元気がない」と映って見えるのかもしれませんが。

一方、東京では、経済活動を刺激してさえいれば、この先も日本が元気にやっていけると信じ込んでいるようなふしがあります。「カラ元気」ですね。

かつて日本は「アカセキレイ」、つまり安心、確実、清潔、規律、礼節の国だと言われてきましたが、これまでの大阪は、よい意味でそうした徳を自ら食いちぎって、それが活力になっていたようなところがありました。「やんちゃ坊主」といいますが、それが

■人口減少時代に向けて、 身の丈にあった将来像を描く

大阪の人の自由で独創的な気風を生み、活気ある文化・経済を育ててきました。とはいえ最近ではそれすらも大人しくなっているようで少し残念な気がしますが、今の大阪は日本の将来の姿に一步近づいているのです。

将来設計の骨組みを考え直す

天皇陛下御即位の一連の行事が終わり、これから日本は本格的な令和の時代に突入します。社会全体で、何かをやろうとしてもうまくいかないことがますます多くなっていくような気がします。なぜなら、いまだに1980年代から1990年頃までの経済成長期のサクセスストーリーをベースにした将来像にしがみついているからです。

人口減少による社会・経済の活力低下が危惧される状況にあって、今のうちから少しずつ身の回りを整理し、穏やかで住み心地が良く、隅々まで気配りのできる社会への転換を考えなくてはなりません。右肩上がりの将来構想を立てても、社会のすう勢と合わず、企業も地方自治体も政府も、やることなすことすべてスムーズに運ばない。令和2年は、少なくとも「自分たちの身のほどをきちんとわきまえる年」にして、右肩下がりになるかも知れない社会に対応できる知恵をどう発揮するかということを皆で考える時です。

そうすれば、令和10年、令和20年も結構明るい令和時代になっていくのではないのでしょうか。考え方を構造的に変えないで、依然として1980年代以降のような夢をもう一度とまっている限りは、決してうまくいきません。

イノベーション頼みの危うさ

政治家や経済学者たちの「イノベーションがあればどうにか乗り越えられる」という言説も疑問です。イノベーションというのは、社会全体が活気に満ち、誰もが「やるぞ!」という気概に溢れているときに生まれやすいもの。将来の不安を抱えた国民が身の丈にあった暮らしを選択しはじめている中、イノベーションだけがポンポン飛び出てくるようなことは考えにくい。トランポリンに乗っても昔なら8m上がったのに、今は2~3mしか飛び上がらないということをしっかり見据えた将来計画、近未来像をつくっていきスタート台に、令和2年をしてほしいものです。現在の「イノベーション頼み」は、ないものねだりなのです。

また、最低賃金を何十円か上げたくらいで、GDP(国内総生産)を10%も20%も増やすことなどできるわけがありません。それは経済人なら分かるはず。企業も将来に対する不安を感じていますから、内部留保を吐き出してまでベンチャーにつき込もうとは思いません。だから経営陣も、最低賃金をほんの少し上げただけで、個人所得を上げたことにしているように思います。

右肩上がりの時代には、社会を動かす組織に実業界で成功した人を呼び込んで手腕を発揮していただいた。景気が下降しつつあるときに、そうした人の成功体験で対処できるでしょ

うか。これからの日本に必要なのは、右肩下がり時代に対応できる人材です。

今こそ日本人としての誇りを

最近、私は中国を訪問することが多いのですが、彼らが日本に憧れを抱いているのを感じます。中国がどんなに経済成長を遂げても、「アカセキレイ」のような徳を持った日本社会にはならないと感じているのです。最前線を退いた後はできれば日本で暮らしたい、あるいは1年のうち1か月ぐらいいは日本でのんびりしたいと望んでいる人が少なくありません。今、私たちに必要なことは、日本人の価値観や文化を守り、磨きをかけて、より良いものにしていくことです。日本人がアイデンティティをしっかりと守ってさえいれば、中国がいかに経済大国になろうとも、日本に対するリスペクトは持ち続けるでしょう。

このことは、とくに日本の若い人たちに知ってほしいと思います。日本独自の価値観を培うためには、日本の自然観や四季との関わりも大切です。例えば月の満ち欠けの周期を基にした太陰暦がありますが、今の若い人は月を見てこれから欠けていくのか、満ちていくのか分からない。昔の人は、夜歩くのに月明かりが大事でしたから、月を見てあと1週間もすれば満月になるとか、新月になるとかが判断できました。日本人が培ってきた道徳観と同じく、そうした自然と親和性のある文化や価値観を知ること、アイデンティティの再認識に役立つと思います。

■万博やオリンピックでは、 開催当事者の懐の広さが試される

地元愛を醸成する「beyond2020」

日本人のアイデンティティを再認識する意味で、東京オリンピック・パラリンピックは大変大きな役割を果たします。ある土地に住んでいる人が、今後もそこに住み続けるには、その土地を愛し、そこに住むことに誇りを持つ意識が大切です。オリンピックのような人類の祭典を契機として、自分の住んでいるところを見直し、たとえ地味でも誇れる文化や伝統、楽しいこと、面白いことがあるということ再認識してもらえれば、オリンピックに大きな費用をかけたとしても十分にやる価値はあると思います。「beyond2020」は、そのための取り組みです。

今日のオリンピックにはどうしても商業主義的なところがあります。それを踏まえ、日本全体のそれぞれのコミュニティのオリンピックに対する善意を吸い上げていく装置が必要ではないかということから、beyond2020が提唱されたのです。

オリンピックの商業主義が強くなると、大きな都市でなければ開催できないという隘路に迷いこみます。そういう中で、小さな地域、村でもオリンピックに参加したという思い出をつくらうためにbeyond2020をつくりあげてきました。

beyond2020は、ある意味で草の根運動を助成するもので、「日本博*」の方は、日本文化の発信に対して政府が補助金を出すものです。おかげさまでbeyond2020の文化プログラムは年々増え、2019年夏までに全国で1万件を突破しました。その中には、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の「参画プログラム」に組み込んでもらうべく、地域の伝統的

大阪は、都市の中心部に 素晴らしい舞台措置を持っている

な山鉾や山車(だし)などを東京に持ってきて披露するという提案をしてくださる自治体もあります。それはとてもありがたいことなのですが、地域のレガシーをつくるというbeyond2020の趣旨からすれば、地元でオリンピック・パラリンピックを見据えた盛り上がりをつくっていただくと、より効果的です。beyond2020は、そうしたことを全国津々浦々で行うものです。だから地方の小都市や市町村でもオリンピックに参加したという思い出ややりがいを持ってもらうために、beyond2020の重要性が増しているのです。

日本各地で行われている一つ一つの「コト」は小さくても、文化情報のプラットフォームをつくっておけば、海外から来た人もそこへアクセスすれば、いつ、どこで、どんなことをしているのかが分かります。地方の市町村の文化や歴史が、そうして世界に発信されるのです。

例えば「水の都」を活かして、川や運河を利用した祭りやイベントなどを行えば、大阪のよさが再認識されます。また、大阪城はとてもクオリティの高い公共空間ですから、それをうまく使って天守閣を背景にいろいろな催しを行えば、大阪の文化を広く発信することができるし、参加する人たちにも、自分たちのまちを愛する気持ちが醸成されるでしょう。都会の真ん中にあれだけの舞台装置があるのは素晴らしいことですし、その活用を期待しています。

*日本博…文化庁が推進する2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、総合テーマ「日本と自然」の下、「日本の美」を体現する美術展や舞台芸術公演、文化芸術祭などを全国で展開するプロジェクト。

大阪・関西万博にのぞむ

大阪のまちや人々が、近未来型の緩やかでのんびりとした社会へと移行しようとしているのに、再び旧来型の「万博」によって拡張・増大路線を進もうとしているかのような誤解を招いてはいけません。市民がやろうとしていることに対して、今の計画は齟齬が生じ始めているような気がします。

そもそも万博やオリンピックというのは、その開催による直接的な経済効果というより、それを契機に文化や社会活動を見直そうという意味を示すものです。目先の採算に固執するもの

ではありませんから、開催にあたっては当事者の懐の広さが試されます。2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムに対する都道府県の文化予算を見ると、大阪府は京都府や奈良県に比べて格段に低い。大阪は、2025年大阪・関西万博の前哨戦ともいえる東京オリンピックの文化プログラムにはとても消極的であるのに、万博となると多額の協力を求めています。東京から見ると、そういう姿勢で万博がうまく開催できるのかどうか心配です。あれだけの大風呂敷を人々の善意で満たすのは、現在の状況ではとても難しいと思います。

また、2025年大阪・関西万博は、市民の間でもまだまだ盛り上がり欠けるように感じます。インターネットで検索しても、出てくるのは「開催が決定した」というニュースばかり。テーマの「いのち輝く未来社会のデザイン」も漠然としていて、具体的にどんなことが行われるのかよく分かりません。それをこれから決めていくのでしょうか、2025年はそんなに遠い先のことでありません。早いうちにテーマを具体的にイメージできるようにし、新聞やテレビなどよりお金のかからないインターネットやSNSを通じて広報活動をはじめ、巷間の話題に上ることが重要です。ラグビーワールドカップは日本中を熱狂させました。これは日本チームの活躍もさることながら、早い時期からオランダの会社と組んで日本語は英語へ、英語は日本語へとSNSで大々的に情報発信し、人々の関心を惹き付けてきたからです。こうした仕掛けが大切です。

大阪の人たちはサービス精神が旺盛ですから、料理などの「モノ」もさることながら、いろいろな「コト」を起こすことができます。それをうまく焼き付けるような「装置」があればいいと思います。それが大阪・関西万博だと思います。

(2019年12月10日／関西・大阪21世紀協会にて)

青柳正規(あおやぎ まさのり)氏

1944年生まれ。1967年東京大学文学部卒業。1991年同大学教授、文学部長、副学長等を経て2005年退職。国立西洋美術館長、独立行政法人国立美術館理事長、文部科学省文化庁長官、山梨県立美術館長を経て、現職。イタリア共和国功績正騎士勲章(2002年)、紫綬褒章(2006年)、NHK放送文化賞(2011年)、瑞宝重光章(2017年)など受章・受賞多数。

「交流サロン21cafe」で講演

「beyond2020、文化プログラムや関西の活性化について」

2019年12月10日／中之島センタービル

青柳氏は当協会主催の21cafeで講演し、この巻頭特集の内容に加え、オリンピック憲章における文化プログラムの位置づけや、過去のオリンピックでの文化的要素について説明されました。また、1964年の東京オリンピックでは「日本最高の芸術作品を展示する」というコンセプトにもとづき、都内各所で歌舞伎や文楽、雅楽、能楽などの古典芸能や古美術展が開催されたことを解説。2020年東京大会における文化プログラムの規模(イベント目標20万件、参加アーティスト5万人、総参加者数5,000万人)や、各地での祭り、イベントなどを紹介しました。



参加者の質問に応える青柳氏

Flügelabend 2019

～ 未来へ羽ばたけ、大阪文化力 ～

2019年11月19日／ザ・シンフォニーホール | 主催(企画・制作・構成)：関西・大阪21世紀協会 協力：ザ・シンフォニーホール
後援：関西経済連合会、大阪商工会議所、関西経済同友会、大阪観光局



関西・大阪21世紀協会
専務理事 佐々木洋三

文化には、人々に感動を与え、創造性を刺激し、相互理解を深め、都市を活性化する力があります。文化庁が呼びかける「beyond2020」は、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に全国津々浦々で魅力的な文化プログラムを展開し、海外からのお客様をお招きするとともに、地域活性化を促す運動です。

関西・大阪21世紀協会もこの呼びかけに呼応し、2016年から大阪版文化プログラムに取り組み、文化プログラムの課題のひとつである日本文化の海外発信にも応えてまいりました。

今回は、大阪音楽大学 ザ・カレッジ・オペラハウスの協力により、関西を代表する二人のソプラノ歌手と、2020年に創立50周年を迎える関西フィルハーモニー管弦楽団(指揮：藤岡幸夫さん)の華麗な共演をお楽しみいただきました。

また、2019年は当協会が事務局を務めるアーツサポート関西の設立5周年にあたることから、助成を受けた方々の中から、関西・大阪を代表するアーティストたちが、ジャンルを越えて圧巻のパフォーマンスを披露しました。アーツサポート関西にご支援いただきました皆様、そして、日頃から関西・大阪21世紀協会の活動にご理解・ご協力いただいている皆様に、厚く御礼を申し上げます。

※Flügel(フリューゲル)はドイツ語の「翼」、abend(アーベント)は「夕べ」。文化で未来へ羽ばたこう!というメッセージを込めたもの。

beyond2020への取り組み、日本文化の発信

2016年 水都を寿ぐ【交響楽能】 East meets West



オーギュスタン・デュメイさん



山本章弘さん

世界的ヴァイオリニストのオーギュスタン・デュメイさん(関西フィルハーモニー管弦楽団音楽監督)による演奏に続き、ワンピース(ニコ・ロビン役)でおなじみの声優・山口由里子さんが語り部となり、関西フィルハーモニー管弦楽団(指揮：ギオルギ・ババアゼさん)と能楽師・山本章弘さんのコラボによる新作能『水の輪』などを上演しました。(2016年11月21日／NHK大阪ホール)

2017年 大阪文化芸術フェスティバル2017 ～水都を寿ぐ【交響楽能】～



北村陽さん



ギオルギ・ババアゼさん



村上麻里絵さん

2016年の【交響楽能】の反響が大きく、再演しました。さらに、世界的に高く評価されている北村陽さん(チェロ)や石橋栄実さん(ソプラノ)を迎え、ハイレベルな演奏を世界に発信。国内外で活躍する村上麻里絵さんによるコンテンポラリーダンスなども上演しました。(2017年10月2日／NHK大阪ホール)

2018年 Flügelabend 2018 ～未来へ羽ばたけ、大阪文化力～



春野恵子さん(左)、一風亭初月さん(右)



地主薫バレエ団



大阪コレギウム・ムジクム合唱団



周防亮介さん

チャイコフスキーのバレエ『眠れる森の美女』のストーリーをなんと浪曲師が語り、一つの舞台上で洋と和の伝統芸能の魅力を伝える実験的な企画。地主薫バレエ団、春野恵子さん(浪曲)、一風亭初月さん(三味線)、藤岡幸夫さん指揮・関西フィルハーモニー管弦楽団による高揚感溢れるパフォーマンスに、会場が興奮と感動に包まれました。当協会が支援する周防亮介さん(ヴァイオリン)や大阪コレギウム・ムジクム合唱団の演奏も披露されました。(2018年10月5日／NHK大阪ホール)

二大ソプラノの共演

喜怒哀楽をテーマにオペラの名場面を

国内外で数々のオペラ作品に出演し、大阪音楽大学で後進の指導にもあたるソプラノ歌手の石橋栄実さんと並河寿美さん。この日は、藤岡幸夫さん指揮による関西フィルハーモニー管弦楽団の演奏で、「喜怒哀楽」をテーマにそれぞれの感情を彷彿させるアリア(オペラの中の独唱曲)4曲と、デュエット2曲が披露されました。二人揃って舞台に立つことは珍しく、デュエットでは、軽やかな声質の石橋さんと豊かな響きの並河さんの個性の違いも楽しみ、会場はうっとりとした気分になりました。

いしばし えみ
石橋栄実さん(ソプラノ)

喜

グノー：
「ロミオとジュリエット」より
"私は夢に生きたい"

ロミオに出会う前のジュリエットが歌う軽やかなワルツ曲。結婚を勧められても「私はまだ青春の中にいたい」と無邪気な乙女心を歌い上げる。

楽

J.シュトラウスII：
「こうもり」より
"公爵様、あなたのようなお方は"

召使いの女性が奥様の衣裳を借りてパーティに出かける。そこでご主人様に見つかるが、とっさに「私は女優よ」と嘘をついて笑い飛ばす。

大阪音楽大学音楽専攻科修了、大阪舞台芸術奨励賞をはじめ受賞多数。1998年ドイツ・ケムニッツ市立劇場「ヘンゼルとグレーテル」のグレーテル役で招聘出演。以来、新国立劇場での数々のオペラ作品や交響曲のソリストとして多数出演。大阪音楽大学教授、同付属音楽院院長。



ビゼー：「カルメン」より"闘牛士"を演奏



ふじおか さちお
藤岡幸夫さん

慶應義塾大学、英国王立ノーザン音楽大学指揮科卒業、マンチェスター室内管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団を経て2007年より関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者。BSテレ東の音楽番組「エンター・ザ・ミュージック」(毎週土曜夜11:30～)に出演中。

© SHIN YAMAGISHI



関西フィルハーモニー管弦楽団

1970年発足。2020年に創立50周年を迎える。世界的ヴァイオリニストのオーギュスタン・デュメイさんが音楽監督、藤岡幸夫さんが首席指揮者、飯守泰次郎さんが桂冠名誉指揮者に就いている。BSテレ東の音楽番組「エンター・ザ・ミュージック」に出演中。

なみかわ ひさみ
並河寿美さん(ソプラノ)

怒

プッチーニ：
「トスカ」より
"歌に生き、恋に生き"

歌手で敬虔なクリスチャンのトスカが、獄中で拷問を受けている恋人のカヴァラドッシの身を案じ、神の不条理な采配に強く抗議する。

哀

グノー：
「ロミオとジュリエット」より
"ああ!何という戦慄が…愛よ力をください"
(ポイズンアリア)

ジュリエットはロミオに仮死状態になる毒を飲ませ、彼が目覚めたら一緒に暮らそうと企むが、心の中では激しい不安に襲われる。

大阪音楽大学大学院オペラ研究室修了。第73回(平成30年度)文化庁芸術祭賞大賞をはじめ受賞多数。新国立劇場、兵庫県立芸術文化センター、びわ湖ホール、東京二期会などの主催公演に多数出演。大阪音楽大学特任准教授、東京二期会会員。

個性が際立つデュエット

ドリーブ:「ラクメ」より"花の二重唱"

色彩豊かなフランス音楽の美しさに加えて、インドを舞台にした異国情緒も加わった魅力的なデュエット。鳥がさえずり、純白のジャスミンが私たちを呼んでいると歌う。

ヴェルディ:「椿姫」より"乾杯の歌"

パーティの席で賑やかに歌われる"乾杯の歌"を、二人の華やかなソプラノ特別バージョンで披露。

披露



中学・高校生新聞部が
取材に訪問

「ソプラノの歌声に終始圧倒された」



石橋栄実さん、並河寿美さん、佐々木専務理事へのインタビュー風景

四天王寺中学・高校、明星高校、京都府立菟道高校の新聞部員の皆さん(13名)が取材に訪れ、共同通信社のご協力、公演のようすを広く配信していただきました。

「今日のような大舞台に臨む心構えは?」という生徒の質問に、石橋栄実さんと並河寿美さんは、「まずは、(演目が)自分の身体の中をしっかり入るまで、たくさん練習すること。練習不足だと不



安や緊張が先立って、良い結果にならない。これは皆さんの試験でも同じ」(石橋さん)、「その前提として健康管理が重要」(並河さん)と応じ、「和洋のコラボレーションという企画をどう思うか?」「オペラの魅力は?」などの質問にも、丁寧に応えていました。

また、主催者である関西・大阪21世紀協会の佐々木洋三専務理事には、音楽イベント以外で、大阪を盛り上げるためにどんな活動をしているかを質問。佐々木専務はアートストリームや令和OSAKA天の川伝説などを紹介し、若い人たちの来場を促しました。今回の舞台を鑑賞した生徒たちは、「(二大ソプラノでは)歌声が顔の近くまで迫ってくるようで終始圧倒された。同じソプラノでも歌う人によって特徴があるのを知り、人間の可能性の大きさを感じた」と感慨しきりでした。

関西から世界へ羽ばたく アーツサポート関西5周年記念公演



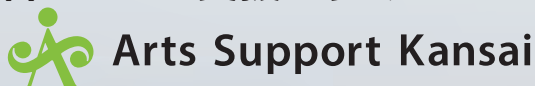
きくおう ゆうじ
菊央雄司さん
(邦楽演奏家)

「地唄は大阪が発祥で、平家物語を語る琵琶法師が三味線に持ち替えて始めたもの。私は現在、アーツサポート関西の支援を受けて、日本音楽の源流の一つである平家琵琶を大阪の地で保存復曲し、世界へ発信する活動をしています」

長谷検校記念第6回全国邦楽コンクール最優秀賞、文化庁奨励賞、2012年大阪文化祭奨励賞など受賞多数。大阪音楽大学講師、文楽研修生講師などとして指導にあたる。三味線、箏、胡弓、平家琵琶など、さまざまな和楽器を演奏。



皆さまのご支援が多くアーティストに力を与えています



5年間で寄付総額1億2千万円、助成件数120件

文化と経済は車の両輪、経済ばかりではなく芸術や文化がなければ人は生きてはいけない——。アーツサポート関西(ASK)は、大阪における芸術・文化の予算の低さを憂いた関西経済同友会が、2012年2月、イギリスの文化政策を参考に「大阪版アーツカウンシルの創設を」と提言*したことはじまります。そして2014年4月、関西・大阪21世紀協会が事務局を担い、民間による文化支援機構「アーツサポート関西」が発足しました。寄付を集めて芸術・文化を支援するこの活動は、国内ではあまり前例のない関西発の先駆的な取り組みです。おかげさまで2019年までの5年間に、1億2千万円を超える寄付が集まりました。関西から世界に羽ばたくアーティストの発掘と育成に、平等を原則とする行政の支援策とは一線を画した、個性ある文化支援を行ってまいりました。

*関西経済同友会 歴史・文化振興委員会(委員長 鳥井信吾氏:当時)「大阪版アーツカウンシル『タニマチ文化評議会』(仮称)の創設を」(2012年2月)

これまでのあゆみ

- 2012年2月 提言「大阪版アーツカウンシル『タニマチ文化評議会』(仮称)の創設を」を発表(関西経済同友会)
- 2014年3月 関西経済同友会が4年間の運営費支援を決定
- 2014年4月 アーツサポート関西 発足
- 5月 チャリティ・ファンレイジング・パーティ開催
- 8月 「そうだ文楽へ行こう!! ワンコインで文楽」支援開始
- 2015年2月 「上方落語若手噺家グランプリ」創設
- 9月 ASK寄付型自動販売機の導入(飲料売り上げの一部を寄付化する取り組み)
- 2016年3月 「ASKサポーター感謝のつどい」開催
- 2017年3月 「岩井コスモ証券ASK支援寄金」発足
- 8月 「ASK成果報告会2017」開催
- 2018年3月 「日本電通メディアアート支援寄金」発足
- 4月 サポーターズクラブ法人会員の受付開始
- 2019年6月 「古本 de 寄付」を創設(古本を回収し寄付化する取り組み)

上方舞
松づくしうめもと うめみづき
榎茂都梅弥月さん
(上方舞榎茂都流師範)

「研究会では、毎月、先生方のお教をいただきながら、榎茂都流に伝わる舞踊譜を忠実に譜面に起こしています。私は子どもの頃から洋舞もしており、現在はダンサーとしても活動しています。これからも皆さんに楽しんでいただけるよう頑張ります」

榎茂都梅咲弥氏に師事し2002年名取。2014年ソウル国際舞踊コンクールEthnic Traditional Dance部門2位受賞。文化庁主催公演(東京・大阪)に出演。2017、2018年度のアーツサポート関西助成対象者に選ばれ、「榎茂都流型付研究会」を発足。



支援の一例

そうだ文楽へ行こう!! ワンコインで文楽

文楽を若い世代にも親しんでもらおうと、大学生などを対象に500円で文楽本公演が観劇できる取り組み。京阪神ビルディング株式会社の中野社長(当時:写真右)の発案ではじまり、以後、岩谷産業株式会社(2016~17年)、丸一鋼管株式会社(2018~19年)へと支援のバトンが受け継がれています。



上方落語若手噺家グランプリ

寺田千代乃氏個人の支援をもとに、若手の落語家に活躍の場を与えたいと桂文枝さん(上方落語協会前会長)らが中心となって2015年に創設。天満天神繁昌亭を会場に、予選を勝ち抜いた10人が決勝戦に臨みます。若手噺家の登竜門として定着し、チケットが売り切れる人気寄席となっています。



チャリティ・ファンレイジング・パーティー

ASKのキックオフのパーティーを2014年5月に開催し、1,650人の方にお越しいただきました。会場(リーガロイヤルホテル大阪)の作品展示や演出は、世界的アーティストの名和晃平さんが担当。パーティーのチケット収入や寄付、オークションで約2,400万円が集まり、関西の文化支援に充てられました。



おおもり かな

大森香奈さん(マリンバ)

セゾルネ：
マリンバ協奏曲より第1楽章

指揮：藤岡幸夫さん

オーケストラ：関西フィルハーモニー管弦楽団

「マリンバを叩く赤いマレットは、大森香奈モデルとして世界中で販売されており、多くの打楽器奏者に使っていただいています。アーツサポート関西5周年の記念に、指揮の藤岡幸夫さん、関西フィルハーモニー管弦楽団と共演させていただいたことを、とても幸せに思います」

大阪音楽大学大学院、ドイツ国立ミュンヘン音楽・演劇大学大学院修了。イタリア国際打楽器コンクール第1位。京都府精華町民文化賞受賞。5枚のアルバムをリリース。国内外で特別講義やコンサート活動、国際コンクールの審査員を行っている。ピンク色のマリンバは特注。



たにもと さあや

谷本沙綾さん(ヴァイオリン)

シベリウス：
ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47より 第2・第3楽章

指揮：藤岡幸夫さん

オーケストラ：関西フィルハーモニー管弦楽団

「シベリウスは私の大好きな曲。それを素晴らしいホールで、憧れの藤岡幸夫さんや関西フィルハーモニー管弦楽団と共演できて幸せでした。今後は海外留学をして、関西に帰ってきたときには、多くの人の心を幸せにするヴァイオリニストになりたいと思っています」

第72回全日本学生音楽コンクール高校の部全国大会第1位。小学5年生より8年間「佐渡裕とスーパーキッズオーケストラ」に在籍。現在、相愛大学音楽学部特別演奏コース1年生に特別奨学生として在籍。



ASKサポーターに感謝の花束を贈呈

アーツサポート関西を通して多大なサポートをしていただいている方々に、出演者より感謝の意を込めて花束が贈られました。(写真右より：花束を持っている人/山本雅弘氏〔毎日放送最高顧問〕、寺田千代乃氏〔アートコーポレーション名誉会長〕、池田博之氏〔関西経済同友会代表幹事、リそな銀行副会長〕、小嶋淳司氏〔がんこフードサービス会長〕、岩橋貞雄氏〔八千代電設工業会長〕)



2019年度

日本万国博覧会記念基金 助成先の事業紹介

今年度助成の43事業の中から、事業者から寄せられた報告をご紹介します。

重点助成事業

備前長船日本刀展覧会

事業者：日本美術技術博物館マンガ館（ポーランド）

交付決定額：640万円

実施期間：2019年11月23日～2020年3月1日（100日間）

実施場所：ポーランド共和国クラクフ市・日本美術技術博物館マンガ館
（Manggha Museum of Japanese Art and Technology）

備前長船刀剣博物館所蔵の利恒（としつね／古備前：鎌倉初期）を始めとする備前刀31振と、現代刀匠による作品6振および5振の拵（こしらえ／柄や鞘など）が出展され、クラクフ市民はもとよりポーランドの人々の強い関心を集めています。特に開会式翌日から2日間開催された、長船町からの派遣団員による日本刀を理解するための講演『剣客の辿り着いた境地』、『日本刀の歴史』、『タタラ製鉄』、『作刀工程』、『刃紋と地肌の美』、『拵えと刀装具』、『鑑賞ポイントとマナー』は、会場一杯に詰めかけた聴講者の日本刀への興味をさらに高めました。また、同時に行われた「研ぎ」、「彫金」、「折り返し鍛錬と焼き入れ」の実演は、来場者の目を釘付けにしました。中でも鍛錬と焼き入れは、澄んで凍てつく闇に舞う炎が幻想的で、刀匠方の鎚を打つ躍動的な姿と相まって、「静と動」の作業風景が来場者を魅了。実演が終了しても質問が相次ぎ、人々が立ち去ろうとしなかったほど強い感動を与えました。

展示会場は全体の照明を少し抑さえ気味にし、スポットライトで刀を浮かび上がらせる工夫をしました。そして長船町からの派遣団の方々により角度を調整して据えられた刀身は、濃い紫色がかかったグレーの背景により美しさや刃



鍛刀の実演

紋の冴えが際立ち、来場者は個々の刀の前で長く見入っていました。

私たちは今回の展覧会が、日本刀の持つ深い魅力の中に、剣道、柔道などの武道はもとより茶道、華道、能などに共通するもの、あるいはその根底にあるものを少しでも感じ取ってもらう機会になればと思っています。

2019年11月30日には、日本大使を始めとする多くの方々の出席をいただき、Manggha館創立25周年、両国国交樹立100周年の記念式典を盛大に挙行することができました。また、翌日の「Mangghaデー」に開催された備前長船博物館館長によるギャラリートークにも多くの参加があり、『備前長船日本刀展覧会』は連日好評を博しています。

長年の夢でもあった日本文化の象徴でもある日本刀の展示会が、瀬戸内市の武久顕也市長のご理解や全日本刀匠会のご協力により、記念すべき年に実現できたことは、この助成が今後の両国の文化交流の新たな1ページに貢献したという思いを強くしました。



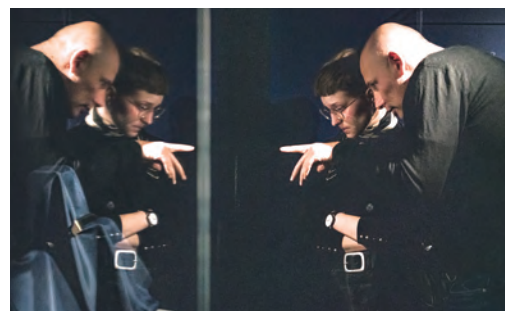
ボグナ・ジェフチャルク=マイ館長による開会式挨拶



焼き入れの実演



講義・実演風景（鑑賞方法）



展示された日本刀に見入る来館者

ビヨントゥモロー「アジアサマー・プログラム2019」

事業者：一般財団法人 教育支援グローバル基金
 交付決定額：200万円
 実施期間：2019年4月1日～10月31日
 実施場所：タイ、シンガポール、インドネシア

ビヨントゥモローは、親との死別・離別や、児童養護施設や里親家庭に暮らすなどの困難を経験した若者を応援する奨学金事業と、人材育成事業を行っています。毎年夏には、人材育成事業の一環として、アジアでのプログラムを開催しています。2019年は奨学生の中から選抜された8名の大学生が東南アジアを訪問し、「自立支援」をテーマに学びを深め、社会的に弱い立場にある人々に対する取り組みを知り、参加者自身がテーマに対する自分の社会的役割を考える機会となりました。

タイでは、山岳民族出身の同年代の若者と寝食を共にし、フィールドワークとして現地幼稚園やパヤオ大学を訪問。支援団体、在タイ日本大使館、国連機関も訪問し、各所で活動する

方々と交流・議論し、東南アジアにおける自立支援の形を模索しました。



ホームステイ先の学生たちと(タイにて)

最終日にはプログラムの集大成として、シンガポールにて、自立支援のために自分たちに何ができるかについて英語によるプレゼンテーションを行いました。

約2週間にわたるプログラムを通して、参加学生たちはタイ、シンガポール、インドネシアの3か国を訪問し、児童養護施設や学生寮に暮らす若者や運営スタッフ、現地の大学の学生や教員など200名近くの方々に活動に参加いただきました。

「日本文化体感プログラム」を通じた首都圏留学生との交流事業

事業者：歴史街道推進協議会
 交付決定額：240万円
 実施期間：2019年8月5日～8日、9月2日～5日
 実施場所：東京大学(東京都)、伊勢神宮(三重県)、東大寺、興福寺(奈良県)、平等院、伏見稲荷大社(京都府)

参加者は、日本がいかにか海外文化を吸収し、独自文化に昇華させてきたかについて事前に東京で講義を受けた後、歴史街道のルートを辿り、仏像や建築など、日本の歴史・文化を体感しました。専門ガイドの説明を受けながら伊勢、奈良、京都を巡り、地元大学生とも交流。最終日に実施されたワークショップでは、参加者全員が今回のプログラムで学んだことをおさらいしました。

参加人数は7か国34名(首都圏留学生29名、地元学生5名)。厳しい暑さの中での開催でしたが、留学生たちには、日常の学業を離れ、日本の歴史・文化に存分に親しんでいただきました。日本の歴史・文化を積極的に吸収しようという意欲が感じられ、「自国文化との共通点、相違点を見出し、日本

への関心を一層深めた」との感想もいただきました。また、地元学生と様々



東大寺にて

なことについて話げできたことも良かったとの評価をいただきました。

日本、特に関西の歴史・文化を理解してもらう活動は全国に広めていく必要があり、首都圏留学生を対象としたプログラムの実施を数年来目指してきましたが、財政的な制約で実施に至っていませんでした。今回は、留学生の皆さんに、より深く日本の歴史・文化に触れる機会をもていただくことができました。

第2回東京国際合唱コンクール

事業者：一般社団法人 東京国際合唱機構
 交付決定額：240万円
 実施期間：2019年7月26日～28日
 実施場所：第一生命ホール(東京都)

第2回目の開催を迎えた本大会は、世界中から予選審査を通過した全57団体、約2,000名の出演者と、のべ3,000名を超えるお客様が東京・晴海に集結し、昨年以上の盛り上がりとなりました。総合プロデューサー・芸術監督の松下耕さんが35年間の音楽活動を経て実現した大規模な国際合唱コンクールが、2年連続でこのように賑々しく開催でき、我々の追い求める「理想」に限りなく近いコンクールが実施できました。

当コンクールは、単に競い合うだけのコンクールではなく、異文化を理解し、国や人種、言語、宗教、すべての境界を超えて人々が平和を分かち合う、平和の祭典でもあります。開催期

間中は、ホールにもロビーにも、出演者やご来場のお客



開催風景

様、スタッフの笑顔が溢れていました。お越しいただいた皆様には、きっと様々な面で、お楽しみいただけたことと思います。

第3回は、2020年9月19日～22日に開催の予定です。すでに世界的な素晴らしい国際審査員とゲストクワイアを招聘し、現在、さらなる発展、賑々しい開催を目指して準備を進めています。

国際セミナー「発展途上のアフリカ諸国における社会経済的変革と日本」

事業者：フェリックス・ウフェ・ボワニ大学 CIRES 経済政策分析センター

交付決定額：170万円

実施期間：2019年8月29日

実施場所：法政大学ボアソナードタワー 26階スカイホール

本事業は、2019年8月28日～30日まで横浜市内で開催された第7回アフリカ開発会議（TICAD 7）のパートナー事業として、コートジボワールのフェリックス・ウフェ・ボワニ（FHB）大学 CIRES 経済政策分析センターと法政大学国際日本学研究所の共催によって行われました。在コートジボワール日本大使館と国際交流基金の支援によって、FHB大学でこれまでに西アフリカ諸国と日本が参加する「フランス語圏アフリカ日本研究国際会議」が2回開催されており、今回は3回目となります。

セミナーでは、ブルキナファソ、コートジボワール、セネガルなど西アフリカ諸国6か国から来日した9名の研究者と日本から法政大学の水野和夫教授など4名、計13名が報告を行いました。1～2回目の主テーマが「文化」だったのに対して、今回は

「経済」の切り口から日本の知見をアフリカ開発にどう活かすかを中心に活発な議論が展開されました。

この研究会は、近い将来にアフリカ初となる「日本研究センター」をFHB大学内に設け、そこを拠点にしてアフリカ国内に「日本研究者」や「日本の良き理解者」を育てることを目指しています。2100年には世界人口の38%を占めると言われる巨大市場との交流を拡大していくためにも、アフリカでの日本理解の促進は欠かせません。



報告者13名を中心とした記念写真
(前列左から3人目がFHB大学アウレ教授)

強相関電子系国際会議 (SCES2019)

事業者：強相関電子系国際会議 (SCES2019) 組織委員会

交付決定額：240万円

実施期間：2019年9月23日～28日

実施場所：岡山コンベンションセンター（岡山県）

岡場で開催された強相関電子系国際会議は、1992年の仙台開催から世界各地で毎年開催されている国際会議であり、日本では5回目の開催となります。今回は、34か国から840名余りの研究者が集まり、近藤効果、高温超伝導、量子磁性体、トポロジカル物質などについて研究発表や議論を行いました。これらの研究は、人類の持続可能な発展を可能にする産業と技術革新の基礎となるものです。

5日間の会期中、187件の講演が4つの会場で行われ、さらに597件のポスター講演も行われました。また、若手研究者2

名と発展途上国の1名の研究者の優れた業績に対して表彰を行いました。

参加者のほとんどは会議場から徒歩圏内のホテルに滞在し、研究に集中した有意義な時間を過ごしました。340名の海外からの参加者の中では、特に韓国と中国を中心としたアジアからの若い研究者の参加が多かったのが特徴でした。



講演風景

ブルガリア・日本「3つの周年」記念事業 大地と天を繋ぐ、調和への祈り ～ブルガリアン・ヴォイス × 笙の響き～ アンジェリーテ来日公演2019

事業者：地球音楽プロジェクト実行委員会

交付決定額：240万円

実施期間：2019年9月29日

実施場所：すみだトリフォニーホール（東京都）

ブルガリアン・ヴォイスの世界的グループ「アンジェリーテ」の特別公演として、日本の雅楽器である笙のアンサンブル「星筐 Hoshigatami」をゲストに迎え、一夜限りのコラボレーション公演を実施しました。アンジェリーテのコンサートに加え、史上初となるコラボレーションとして3曲を新たにアレンジし演奏を行いました。ご来場者のアンケートでもこの共演が非常に好評で、多様な文化がそれぞれを尊重することで調和し、発展の未来を感じさせる新たな音楽文化体験として強い印象を残すことができました。

さらに、それぞれの音楽や文化への理解を深めるため、ブ

ルガリアン・ヴォイスのワークショップ、笙の体験コーナー、

ブルガリアの風景写真や、衣装の展示なども実施。1,136名が来場し、約30名がブルガリアン・ヴォイスのワークショップに、15組が笙体験コーナーにも参加しました。

異文化を調和させ発展させるという今回の公演趣旨は、万博理念に深く通じるところがあり、今後も意義ある事業を作り上げていきたいと思っております。



公演風景

※写真は各事業者より提供

「教育・文化・安心」で沿線地域の発展に貢献



大阪・関西万博が開催される2025年度は、阪急阪神ホールディングスにとって阪急と阪神の経営統合(2006年)から20年を迎える節目。同社トップである角和夫氏に、関西の鉄道事業者として、また財界リーダーの立場として、万博を契機とした大阪・関西活性化への思いなどを伺った。

小林一三の事業戦略

当社の基幹事業である鉄道は、阪急・阪神とも100年以上の歴史があります。大阪と神戸の財界人が発起人となって創業した阪神電鉄は、1905年に大阪(出入橋)ー神戸(三宮)間で営業を開始しました。このとき阪神は、将来、大都市間の輸送は大量かつ高速になると予見し、安全上の観点などから幅広の標準軌*1でレールを敷設しました。狭軌にする考えが一般的だった時代、阪神の技術者はアメリカまで行って標準軌を学び設計したのです。

阪急電鉄は、その5年後の1910年に梅田ー宝塚間および箕面ー石橋間を開業しました。当時、通勤・通学の利用者が毎日確実に見込める阪神電鉄や南海電鉄と違い、農村地帯がルートの阪急電鉄に行楽目的以外の輸送需要は全くないと思われました。そこで創業者の小林一三は、新たな輸送需要をつくるため、さまざまな知恵を働かせました。まずは田園地帯が広がる池田室町で宅地開発を行い、現在の住宅ローンの先駆けともいえる住宅の割賦販売を提案しました。大大阪時代の工業化で空気が汚れた市内ではなく、環境の良い郊外にマイホームを持つことをサラリーマンに訴え、新たなライフスタイルを生み出したのです。

また、電力供給事業や、郊外への輸送需要を増やすべくレジャー施設の開発も行いました。1911年に宝塚新温泉を



宝塚大劇場公演フィナーレ

©宝塚歌劇団

オープンし、洋館の中に洒落たレストランや室内プールを建設しました。プールは失敗しましたが、1914年にそれを劇場に転用し、宝塚少女歌劇(現在の宝塚歌劇)の第1回公演が行われました。これが人気を博し、10年後の1924年には4,000人収容の宝塚大劇場を建設しました。宝塚歌劇は、小林一三の「大衆が安価に楽しめる健全で分かりやすい娯楽を提供したい」という思いから誕生したのです。

*1：標準軌…欧米など世界でもっとも多く採用されているレール幅。新幹線のレールも標準軌。

時代に則したビジネスモデル

小林一三は日本の私鉄経営のビジネスモデルを確立しましたが、それは鉄道事業者として後発だったからこそ発揮されたベンチャー精神からでした。沿線を大事にして、良質な住宅や商業、文化施設などを提供することで沿線のブランド力を高め、「沿線に住みたい・沿線に行きたい」という人々を創出するという、このビジネスモデルは100年を経た現在も不変ですが、時代に則してリプレイスしていくことも重要です。

かつて当社グループは、宝塚ファミリーランド、阪急ブレーブス(西宮スタジアム)、宝塚歌劇の三つの事業において毎年大



阪急西宮ガーデンズ

庭園と一体になった芸術文化施設の整備を進めており、2020年春にオープン予定です。また、西宮スタジアムの跡地には百貨店や映画館などを含む大型ショッピングセンターの阪急西宮ガーデンズ(2008年)を建設しました。その周辺には、当社所有の土地をお貸して、兵庫県立芸術文化センター(2005年)や甲南大学(2009年)に来てもらいました。すべては当社事業のキーワードである「教育・文化・安心」に立った上でのリプレイスです。

宝塚歌劇は事業として成り立つようにさまざまな見直しを行い、1998年から東京での通年公演を開始し、2001年には新しい東京宝塚劇場がオープンしました。昨年に105周年を迎えましたが、その歴史の中で今が一番多くのお客様に来ていただいていると思います。現在、宝塚大劇場と東京宝塚劇場あわせて年間約900公演行っており、チケットは毎回売り切れ。こうして利益の出せる自立した事業になれば、海外の人気作品の上演権も買えるし、公演内容の質も向上します。最近は海外での人気も高まり、現地スポンサーのご支援もお願いしやすくなりました。

こうした取り組みの結果、メジャーセブン*2の「住んでみたい街アンケート(2019年・関西版)で、西宮北口が4年連続で1位にランクされました。また、日本生産性本部が調査した2018年度の日本版顧客満足度指数によれば、宝塚歌劇団がエンタテインメント業種で3年連続1位(総合1位)、阪急電鉄は近郊鉄道業種で10年連続1位(総合22位)にランクされています。

*2: メジャーセブン…住友不動産、大京、東急不動産、東京建物、野村不動産、三井不動産レジデンシャル、三菱地所レジデンスの7社

囲碁とエレキギター

音楽や文化的なことに学生時代から興味があり、19歳から囲碁を始めました。文化を守り振興するためにはお金も必要ですが、近年はスポンサーの減少で日本での国際棋戦がありませんでした。そこで企業に呼びかけ、阪急電鉄を含め企業4社の協賛で優勝賞金3,000万円の国際棋戦「第1回ワールド碁チャンピオンシップ」が2017年に日本棋院関西総本部(大阪市)で開催されました。その記念に井山裕太さん³と対局させていただき、とてもいい思い出になりました。(囲碁界に貢献した点を配慮してもらい7段に昇段)

また、中学3年生でエレキギターをはじめ、高校生になるとバンドを組んで演奏していました。宝塚歌劇団の春野寿美礼さんの退団公演・サヨナラショーには「こんなにも愛されて」という曲を歌詞・作曲しプレゼントしました。

*3: 井山裕太…1989年大阪府出身。九段(棋聖、本因坊、王座、天元)、2017年関西元氣文化園賞特別賞、2018年国民栄誉賞受賞。日本棋院関西総本部所属。

きな赤字を出していました。民間企業ですから、収支の合わない事業を継続することはできません。そこで宝塚ファミリーランドは住宅や商業施設に転用し、その一部に関西学院の初等部(小学校)ができ、現在、宝塚市が

関西の強みを活かしたイノベーション

2025年大阪・関西万博の開催に向けて、昨年10月、関西に主要路線を持つ鉄道会社7社が、「MaaS(マース: Mobility as a Service)」の導入について共同で検討することに合意しました。関西地域で出発地から目的地までのシームレスな移動手段を提供するもので、鉄道利用者や地域社会、次世代のまちづくりに貢献する取り組みです。

また、当社独自の取り組みとして、SDGs*4の実現に向けて、まちのより良い環境づくりと、まちの将来を担う次世代の育成を重点とする「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」があります。昨年5月から今年5月までの間、プロジェクトの10周年を記念して、阪急神戸線・宝塚線・京都線と阪神本線



SDGsトレイン未来のゆめ・まち号

において、SDGsの啓発メッセージを発信する「SDGsトレイン未来のゆめ・まち号」を運行しています。車両にSDGsの取組項目を親しみやすく表現したラッピングを施し、車内の全ての広告スペースを使ってSDGsが掲げる目標の解説や、当社グループをはじめ国や沿線自治体、協賛企業、市民団体などのSDGsへの取り組みに関するメッセージを掲示するものです。これが外務省から日本の取り組みとして、国連本部の会合でもご紹介いただいたようです。

関西は、古くから医学や創薬に関する研究や事業が盛んです。近年は、ノーベル賞受賞者を多く輩出している京都大学をはじめ、国公私立大学医学部、神戸医療産業都市、彩都ライフサイエンスパーク、けいはんな学研都市、健都、うめきたや中之島などに、先進的な医薬研究機関が集積しています。また、大阪・関西万博の会場となる夢洲にも、そうした拠点としての活用が期待されています。

2015年、関西の行政機関と産業界が大学や研究機関と協力し、「関西健康・医療創生会議」(議長: 井村裕夫京都大学名誉教授)が創設されました。私は、こうした産学官の密接な連携によって、健康長寿社会の実現に向けて産業や人材育成のイノベーションを起こすことで、関西を健康・医療の先進地域として世界をリードする魅力的な地域にしていかなければならないと思います。「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマの2025年大阪・関西万博は、まさにそのチャンスといえるでしょう。

*4: SDGs…「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」。2015年9月の国連サミットで採択され、貧困や教育、環境保護など17分野での社会課題の解決を達成しようというもの。

写真提供: 阪急阪神ホールディングス

角 和夫(すみ かずお)氏

1949年兵庫県宝塚市出身。1973年早稲田大学政治経済学部を卒業し、同年阪急電鉄入社。2003年同社代表取締役社長、2006年阪急阪神ホールディングス代表取締役社長を経て現職(阪急電鉄会長を兼任)。(公社)関西経済連合会副会長(2011年5月～)、関西健康・医療創生会議アドバイザー・ボードメンバー。

阪急阪神ホールディングス株式会社

大阪市北区芝田1丁目16番1号(本社事務所)。資本金994億7,400万円(2019年3月現在)。阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪急阪神不動産、阪急交通社、阪急阪神エクスプレス、阪急阪神ホテルズの6社を中核会社とする純粋持株会社で、グループ全体の事業戦略の策定や経営管理などを行う。

御堂筋パレードの感動をふたたび 大阪城を背景にハイレベルな演奏・演技を披露

大阪キャッスルマーチング

2019年11月23日 / 大阪城天守閣前広場

主催: 関西吹奏楽連盟、関西・大阪21世紀協会

協力: 大阪城パークマネジメント株式会社、関西マーチングバンド協会 協賛: 大阪市高速電気軌道株式会社 (Osaka Metro)



吹奏楽を通じて青少年の育成に寄与

日本トップクラスの実力を備えた関西の高校吹奏楽部。関西・大阪21世紀協会は、かつて25年間にわたり「御堂筋パレード」(1983~2007年)を主催。その模様は民放各局がリレー中継する大がかりなもので、吹奏楽を通じて青少年の育成に寄与すると同時に、関西の高校吹奏楽部の実力を多くの人に知ってもらう絶好の機会となっていました。

このたび当協会は、関西吹奏楽連盟からの依頼に応え、中学・高校吹奏楽のレベル向上と大阪城へのインバウンドの誘客促進をめざし、「大阪キャッスルマーチング」を開催。中学・

高校合わせて10校・総勢641名の生徒が、大阪のシンボル・大阪城で日頃の成果を披露しました。

この日は、大阪城ホールで行われる「第32回全日本マーチングコンテスト」(全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社主催)の初日にあたり、全国からの出場校も登場。ハイレベルな演奏・演技に、観衆から大きな拍手と声援が送られました。当協会は、今後もこうした企画を通して、青少年の育成と大阪城のブランディングに貢献していきます。

大阪府

箕面自由学園高等学校吹奏楽部
ゴールデンベアーズ 112名



コンテストにも出場。演奏曲は「パリのアメリカ人」「枯葉」などのシャンソンメドレー、「ドラムライン」など。

自 由の大地に響く心・響き合う心」をモットーに、地域の人々に愛されるバンドを目指す。第32回全日本マーチング

岡山県

と な み し ょ う せ い
砥波市立庄西中学校吹奏楽部 45名



始めた部員が大半。演奏曲は「大いなる約束の大地〜チンギス・ハーン」「ウエスト・サイド・ストーリー」メドレー。

第 32回全日本マーチングコンテストに3年ぶり5回目の出場を果たす(現部員は全員初出場)。中学に入って楽器を

兵庫県

お お し ょ う
尼崎市立大庄中学校吹奏楽部 32名



で、1年生は入部してまだ半年の経験。演奏曲は「パプリカ」(ダンス付)、「ロマネスク」など。

ユ ニフォームに記された「一音入魂」の言葉は、歴代先輩から受け継ぐ同部のモットー。今回出場したのは、1、2年生

大阪府

四條畷学園高等学校吹奏楽部 80名



9回大阪マラソンのオープニングセレモニーでも演奏。演奏曲は「海を越える握手」「ちびまる子ちゃん」メドレーなど。

同 校にはクラス全員が吹奏楽部員の「吹奏楽クラス」がある。部員は他のクラスの生徒も含め約150名。2019年12月の第

宮城県 仙台市立東仙台中学校吹奏楽部 46名



吹奏楽では東北を代表する実力校だが、マーチングを始めたのは2018年から。1年で腕を磨き、第32回全日本マーチングコンテストに出場。演奏曲は「オリンピック東京大会ファンファーレ」「トゥルーパー・サリュート」など。

吹 奏楽では東北を代表する実力校だが、マーチングを始めたのは2018年から。1年で腕を磨き、第32回全日本マーチングコンテストに出場。演奏曲は「オリンピック東京大会ファンファーレ」「トゥルーパー・サリュート」など。

兵庫県 神戸弘陵学園高等学校マーチングバンド部 28名



皆さんに笑顔よ届け！を合言葉に活動。演奏曲は、ブルーノ・マーズヒットメドレーやアニメ「けいおん!!」の劇中曲「Listen!!」「GO!GO! MANIAC」など。京都アニメーションへの追悼の意とエールを込めたパフォーマンスを披露。

皆 さんに笑顔よ届け！を合言葉に活動。演奏曲は、ブルーノ・マーズヒットメドレーやアニメ「けいおん!!」の劇中曲「Listen!!」「GO!GO! MANIAC」など。京都アニメーションへの追悼の意とエールを込めたパフォーマンスを披露。

大阪府 早稲田摂陵高等学校ウィンドバンド 65名



女子生徒だけの「普通科吹奏楽コース」があり、シンフォニーホールで定期演奏会も行う。現在、女子64名のウィンドバンドは、「音楽で躍動と感動を」を合言葉に活動。演奏曲は、「ザ・スクールミュージシャン・マーチ」「パプリカ」など。

女 子生徒だけの「普通科吹奏楽コース」があり、シンフォニーホールで定期演奏会も行う。現在、女子64名のウィンドバンドは、「音楽で躍動と感動を」を合言葉に活動。演奏曲は、「ザ・スクールミュージシャン・マーチ」「パプリカ」など。

愛知県 名古屋市立植田中学校吹奏楽部 84名



現在、全部員数は93人。「ワンサウンド・ワンハート 一つの音をつくる・一つの心を奏でる」を合い言葉に活動。第32回全日本マーチングコンテストに出場。演奏曲は「ムーンリバー」「アンパンマンのマーチ」など。

現 在、全部員数は93人。「ワンサウンド・ワンハート 一つの音をつくる・一つの心を奏でる」を合い言葉に活動。第32回全日本マーチングコンテストに出場。演奏曲は「ムーンリバー」「アンパンマンのマーチ」など。

高知県 土佐女子中学高等学校吹奏楽部 52名



知城が部室の窓から見える同校では、現在、中学1年生から高校3年生まで約70人の部員で活動。第32回全日本マーチングコンテストに出場。演奏曲は、「オペラ座の怪人」「明日があるさ」など。

高 知城が部室の窓から見える同校では、現在、中学1年生から高校3年生まで約70人の部員で活動。第32回全日本マーチングコンテストに出場。演奏曲は、「オペラ座の怪人」「明日があるさ」など。

京都府 京都橘高等学校吹奏楽部 97名



多数の全国大会に出場。アメリカ最大級のパレード「ローズ・パレード」に出場するなど、世界的にも実力が認められている。演奏曲は「ウィンターゲームス」「ドント・ストップ・ミー・ナウ」「シング・シング・シング」など。

多 数の全国大会に出場。アメリカ最大級のパレード「ローズ・パレード」に出場するなど、世界的にも実力が認められている。演奏曲は「ウィンターゲームス」「ドント・ストップ・ミー・ナウ」「シング・シング・シング」など。

memory 御堂筋パレード

あの日、人々の心は熱い音楽でつながった…



御堂筋パレードで演奏する箕面自由学園高等学校吹奏楽部 (2006年10月8日)

催となった2007年には、中学・高校の吹奏楽部、バントワリング部、チアリーダー、小学生鼓笛隊など16隊、総勢

約2,400人が出場。大阪のメインストリートで多くの観衆を前にやり遂げた経験は、卒業後も誇らしい思い出になったことでしょう。そして生徒たちはもとより、その演奏・演技をライブで楽しんだ多くの人たちにも、自分たちの地域に対する愛着が育まれました。ちなみに、2007年5月発行の大阪市広報紙「大阪市政だより」で実施した「大阪のええとこアンケート」で、御堂筋パレードは「イベント・サービス」部門で天神祭をこえて1位にランクされました。

約2,400人が出場。大阪のメインストリートで多くの観衆を前にやり遂げた経験は、卒業後も誇らしい思い出になったことでしょう。そして生徒たちはもとより、その演奏・演技をライブで楽しんだ多くの人たちにも、自分たちの地域に対する愛着が育まれました。ちなみに、2007年5月発行の大阪市広報紙「大阪市政だより」で実施した「大阪のええとこアンケート」で、御堂筋パレードは「イベント・サービス」部門で天神祭をこえて1位にランクされました。

関西・大阪21世紀協会は、こうして醸成される住民のプライドこそがまちづくりの原点であると考え、さまざまな活動や社会実験を続けています。

日本の文化に親しむ

「源平の雅」

2019年10月17日／国立文楽劇場

当協会の上方文化芸能運営委員会は、上方文化の伝承と振興に力を注いでいます。今回の「日本の文化に親しむ『源平の雅』」は能と長唄で構成し、2回公演で800人を超えるお客様にお楽しみいただきました。

主催：公益財団法人関西・大阪21世紀協会 上方文化芸能運営委員会
協力：松竹株式会社、株式会社アローブプロモーション
構成・演出：藤間 勘十郎



弁慶・牛若の圧巻の斬り組み

はし べん けい
半能「橋弁慶」

京都五条に剣術の腕のたつ子供がいるという噂を聞いて、自ら五条橋に向かった武蔵坊弁慶（浦田保親）は、そこに現れた稚児と戦い、敗れます。この稚児こそ鞍馬山の犬天狗僧上坊より兵法の奥義を伝授された源義朝の子牛若丸（味方慧）、後の源義経でした。そのときから弁慶は牛若の家来となり、生涯を共に送ることを誓います。

能の名作を今回は後半の二人の戦いの場面を中心に半能として上演しました。



浦田保親(左)、味方慧(右)



「義経千本桜」の平成版「道行き」

ほととぎす はなに ある さと
長唄「時鳥花有里」

藤原朝方の陰謀により兄源頼朝から追われる身となった源義経（中村鷹之資）は、家臣鷲尾三郎（尾上菊之丞）と時鳥の鳴くなか龍田の里まで逃げ延びます。そこで白拍子、傀儡師一行に出会いますが、その一行の正体は龍田の女神（中村梅彌、花柳まり草、若柳杏子）と龍田の明神（藤間勘十郎）なのでした。

「義経千本桜」の古い台本に残っていたものを松岡亮補訂、藤間勘十郎振付により松本幸四郎が復活した作品を今回は素踊りで上演。平成の時代にできた千本桜の新しい道行きとなりました。



中村鷹之資(左)、尾上菊之丞(右)



藤間勘十郎



狂言を交えた新たな演出

ふな べん けい

長唄「船弁慶」

堀川御所没落後、津ノ国尼ヶ崎大物浦まできた義経（中村鷹之資）を静御前（松本幸四郎）が訪ねてきます。今の身の上では静を同道することができないと思った義経は、静に名残の舞を舞わせ、別れを告げます。出船の時刻になり、船長（茂山逸平）は船を出しますが、平家の一門を携えた新中納言平知盛（松本幸四郎・二役）の幽霊が現れ義経に立ち向かいます。しかし武蔵坊弁慶（市川九團次）の法力により幽霊はいずれともなく消えていきます。松羽目物歌舞伎舞踊で新歌舞伎十八番の一つ。1885年11月、東京・新富座で九世市川團十郎により初演。

二世杵屋勝三郎作曲の長唄を河竹黙阿弥が改作したものです。その後六世尾上菊五郎の手により今の演出となりました。歌舞伎の名作を今回は狂言を交えて新しい演出で上演しました。



市川九團次(左)、中村鷹之資(右)



茂山逸平



松本幸四郎



松本幸四郎

撮影:近江哲平



アートの殻を突き破る表現者たち アートストリーム 2019

2019年9月6日～8日／大丸心斎橋店

主催：アートストリーム実行委員会

(大阪芸術大学、大阪府、大阪市、関西・大阪21世紀協会)



アートで交流、世界へ発信

グランプリ
藤原正和さん



関西を拠点に活動するアーティストに、発表の場と飛躍の機会を提供する展覧会・マーケット「アートストリーム」。2003年にはじまり19回目を迎えた今回は、招待作家と公募選考による計85組の作品が展示されました。その中には韓国やイタリアからの出展もあり、まさに大阪から世界に向けてアートの潮流(ストリーム)を発信するイベントに成長しています。会場には外国人の姿も増え、3日間で最多となるのべ約3,700人の来場者で賑わいました。

作品のジャンルは絵画、彫刻、オブジェ、クラフト、メディアアートなど多種多様。その中から審査委員*の選考により、グランプリ(賞金30万円)が藤原正和さん(京都市在住)に贈られました。受賞作は、黒い小さなカプセルをモーターを使って、あたかも無数のダンゴ虫が白い壁を這い回っているようなようすを表現したキネティックアート(自然的・人工的な動力を使って動く立体作品)。みる人を驚かせ、好奇心を刺激する発想が審査員の評価を集めました。今回で3度目の参加

という藤原さんは、「まずは“何だろう”“わぁ不思議”と感じてもらいたい。それからもっとよくみたいという動機につなげ、動きの正体があるとクスッと笑え、やがてそれ

奨励賞
申善美さん



が癒しにつながることを意図している。アートストリームは、みる人の反応をじかに感じる良い機会」と笑顔で語りました。奨励賞（賞金5万円）は申善美さん（シン・ソンミ／絵画）、間瀬眞理菜さん（日本刺繍）、松本拓海さん（立体絵画）が受賞。仕事の発注や個展開催などを副賞とした「企業・ギャラリー賞（23社・団体）」は、ばーしーさん（絵画／関西・大阪21世紀協会賞）、長谷川美紀さん（同／アーツサポート関西賞、大阪韓国文化院賞、ターレンスジャパン賞）ら16名に、来場者の投票で決めるオーディエンス賞は、嘴さん（クチバシ／情景画）に贈られました。

アートストリームの実行委員長を務める関西・大阪21世紀協会の佐々木洋三専務理事は、主催者挨拶の中で、「韓日関係がかつてないほど冷え込んでいる中、駐大阪大韓民国総領事館・韓国文化院の協力により3名のアーティストを招くことができました。アートには、みる人に感動を与え、創造力を高め、相互理解を深める力がある。アートストリームが両国の友好関係のために少しでもお役に立てれば嬉しい」と語りました。

また、来賓の駐大阪韓国文化院・李昌秀（イ・チャンス）

関西・大阪21世紀協会賞 ばーしーさん



副院長も、「アートそして文化の力が、日本と韓国の友好親善に及ぶことを願う。また、作家と企業や美術関係者が一堂に会し、このイベントを盛り上げていることを見習いたい。多くの国が参加し、国際的なアートマーケットに発展するよう期待している」と祝辞を寄せました。

来場者へのアンケート（606人回答）によると、今回も10代から70代以上まで幅広い世代の来場者があり、「作家とじかに話ができて、作品への思いなども聞けて良かった」「いろいろなジャンルの作品をみるのができて楽しかった」などの感想が多く、「大変良かった（55%）」と「良かった（40%）」をあわせると95%の高評価となりました。

* 審査委員… 絹谷幸二氏（審査委員長／洋画家、文化功労者）、養豊氏（兵庫県立美術館館長）、田崎友紀子氏（株式会社スーパーステーション取締役副社長）、ドミニク・ルトランジェ氏（画家）



会場風景

「OSAKA×MILANO DESIGN LINK 2019」にも参加

アートストリーム会場の大丸心齋橋店は、本館グランドオープン（2019年9月20日）を記念して、同年10月12日から約3週間「OSAKA×MILANO DESIGN LINK 2019」を開催しました。大阪と姉妹都市のミラノで行なわれる世界最大級のデザインイベント「ミラノ・フォーリサローネ」の作品群を心齋橋地区の店舗や寺院などに展示し、ここからアートのうねりを起こそうとする企画です。日本からの参加者7名は、なんと全員がアートストリームで活躍してきたアーティストでした。（富岡雅寛さん、藤原正和さん、木村奈央さん、永濱貴之さん、AKANE KOJIMAさん、池田千穂さん、イコールヨシエさん）

11月2日には、その鑑賞ツアー「心齋橋アートクルーズ」が実施され、クリスタ長堀、日航ホテル大阪、三津寺、難波神社において、過去のアートストリーム出品作が再掲。ク

ルーズ参加者からは、「展示環境が変わり、いつものアートストリームとは異なる印象で楽しめた」「ナビゲーターの解りやすい解説で、作品に対する親しみがさらに増した」と好評でした。また、道行く人や海外からの旅行者も足を止めて写真を撮っていました。OSAKA×MILANO DESIGN LINK 2019に招聘されたことで作品が国内外に発信され、アーティストたちにとって新たな飛躍のきっかけとなることを願っています。



富岡雅寛さん「カオスモス／2018年奨励賞」
自然現象を体感するオブジェに道行く人も足を止めて作品を体感（クリスタ長堀・滝の広場）



AKANE KOJIMAさん「わたし／2016年奨励賞」
制作に1年以上かけた刺繍アート。制作過程で起きた心の動きも作品に投影（三津寺）



御食国 関西 瀬戸内が育んだ大阪の食文化 ～なにわ鯛絵巻～(24分)

総合監修:佐々木洋三(関西・大阪21世紀協会 専務理事) 制作著作:オプテージ、関西・大阪21世紀協会

大地(ジオ)の遺産 瀬戸内海

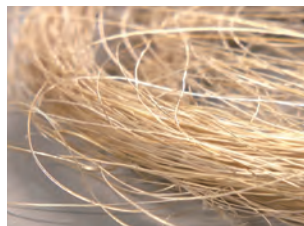
朝廷に魚介類を献上することが許された「御食国」。関西の食文化を掘り起こす御食国シリーズの第6弾は、日本人の食や風習にゆかりの深い高級魚「真鯛」をテーマに、瀬戸内が果たした役割にスポットを当てます。

大阪湾南岸一帯は「ちぬ(茅渟)の海」と呼ばれました。茅渟は和泉国あたりの古称で、茅(かや)の生えた野を意味し、江戸時代の国学者本居宣長の『古事伝記』には、クロダイが「ちぬの海」の名産であったことから、魚名に「チヌ」がついたと記しています。また、「なにわ」の語源は、たくさん(な)の魚(な)が漁れる庭(にわ)を意味するとも言われました。

司馬遼太郎は『大阪の原形』という短編の中で、古代大阪を「四天王寺が造営(593年)されたころに、もし『大阪市民』の先祖がいたとすれば、それは恐らく漁民だった。古代の淀川河口、大阪湾一円には多くの漁民が住み、古代のことばで『あま(海人)』と呼ばれた。(中略)古代の大阪湾は、漁場として偉大だった。古代から近世にいたるまで、沿岸漁業の技術の蓄積と進歩を生んだ海である。とくに河内(大阪市の郊外)や大和(奈良県)に所在した宮廷のために、海人は魚や貝をとり、塩をつかった。このため淡路島をふくめ、宮廷の直轄の漁師ということになっていた。住吉大社の祭神は海と海底をつかさどる神であり、かれら漁師たちが、自分たちの神であるとして崇敬していた。

「百魚の王」と真鯛が崇められたのはその呼び名からも明らかで、春先、産卵に乗っ込む鯛を「桜鯛(春)」、産卵後の痩せた鯛を「麦わら鯛(夏)」、越冬前の脂の乗ったものを裏旬の「もみじ鯛(秋)」と呼び、市場価値が変わりました。

真鯛は潮流の速い岩場を好むため、江戸時代から身を傷めない「一本釣り」が重んじられてきました。そこで欠かせないのが「テグス」と呼ばれる釣り糸。番組ではテグスサンという蛾の繭から作ったこの透明な糸のルーツを探ります。もともとは大阪・道修町の薬問屋が瀬戸内海航路で中国から取り寄せ、漢方薬を縛るために使っていたものでした。やがて、鳴門の漁師たちはテグスを直接中国から仕入れて、専門に販売する「テグス商廻船」をはじめました。この行商船はテグスや釣り針といった漁具(ハード)だけでなく、瀬戸内海各所の一本釣りの漁法



昭和初期に使われていたテグス(左)と昭和47年まで活躍していた堂浦のテグス行商船(瀬戸内歴史民俗資料館)



やさまざまな文化・情報(ソフト)の媒介役となったのです。

番組では、当地で最後のテグス行商船を知る釣具店の店主や、テグス行商船の実物が展示されている瀬戸内海歴史民俗資料館(香川県高松市)を訪ね、当時の様子取材しています。さらに、鳴門海峡で35年間にわたり鯛漁をしている漁師の伝統的な真鯛の一本釣り漁に同行。鯛漁に適した天候や餌、仕掛けの説明に加え、1～2kgほどある真鯛を次々に釣り上げ、「鳴門鯛」のブランド名で出荷されるまでを紹介しています。

そんな大阪が、さらなる発展を遂げることができたのは、大地(ジオ)の遺産、瀬戸内海によるところが大きいといえます。まだ、動力がなかった時代は、潮汐による潮流が下関-大阪間の船の往來を支えてきました。これにより古くは遣唐使や遣隋使の時代から、大阪は日本の玄関口として大陸の文化を吸収してきました。

このように瀬戸内海に面した大阪には、生きたままの魚が運ばれ、活魚料理が発展。記録に残されたところでは、元禄時代、佐賀関の漁師達が、釣り上げたマダイを生簀に生かしたまま大阪まで運び、雑魚場(魚市場)に卸したというから驚きです。また、その模様を唄った民謡も今に伝承されています。そして、大正時代には客の目前で魚を料理してみせる割烹料理が大阪に生まれ、グルメな船場の旦那衆を虜にしました。

黒門市場から国立文楽劇場に納められる「にらみ鯛」が初春の風物詩として有名です。商人の街・船場では、かつて立春から八十八夜にかけて「お鯛さん」を得意先や隣近所にふるまう習慣があり、その身を刺身にしたり、頭や骨はあら炊きや潮汁、残りは煮付けにしたり、「喰いきり」の精神で残らず味わいました。番組では、そうした大阪の伝統的な鯛料理を現代感覚で継承する料理人の技も紹介。

最後は、瀬戸内のグローバル性に詳しい奥野卓司氏(関西学院大学社会学部名誉教授)に、アビという鳥を活用した「アビ漁」を引き合いに鯛を通して瀬戸内海が大阪の発展に貢献したことや、現在の国際化の中で大阪・関西に求められている役割について言及していただきました。



奥野卓司氏



菜種油を使い7時間も火をいれて作った「小鯛の野崎焼き」。骨まで丸ごと食べられる(懐石料理 雲鶴(大阪市北区))



ナビゲーター
泉 希衣子

関西・大阪21世紀協会は、動画「御食国 関西」をウェブサイトに掲載しています。

YouTube

御食国 関西



で検索

または、関西・大阪21世紀協会ウェブサイト「関西の魅力」にアップ中です。
<http://www.osaka21.or.jp/movie/>

イベント報告

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発展と発信」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。その中から、2019年度下半期に実施された事業のいくつかをご報告いたします。

1講座500円・ワークショップの見本市 ワークショップフェスティバル DOORS 13th

2019年7月27日～30日、8月3日～4日

(大阪市立芸術創造館、旭区民センター、大阪府立江之子島文化芸術創造センター、クレオ大阪南)

主催：IWF実行委員会(関西・大阪21世紀協会、アートサポート共同事業体)

「誰もが気軽に参加できること」をモットーとしたワークショップ(体験講座)の見本市。古典芸能から最新アートまで、「ちょっと興味がある」「一度やってみたかった」というニーズに応え、今回で第13回を迎えました。大阪市内の4会場で101講座が開催され、小学生から60代以上まで、のべ1,201名が参加。ワークショップ技術の養成を目的とした講師対象の「ワークショップ勉強会」も5年目を迎え、講師同士の交流機会としても好評でした。

また、関連企画として、今回も西宮市と西宮ドアーズ実行委員会の主催で「西宮ドアーズ」(同年8月24日～25日)を開催。西宮市民会館において、マジック入門や狂言体験など32講座が開講されました。



「5才に!あなたに似合う美人眉メイクレッスン」の様子



「ワークショップ勉強会」の様子

水惑星地球の行方を探る

交流サロン21cafe モホール計画・人類未踏のマントルへの挑戦

巽 好幸氏(神戸大学海洋底探査センター センター長) 2019年9月12日/中之島センタービル

モホール計画とは、海底のモホ面(地殻とマントルの境界)に穴(ホール)をあけ、マントルの岩石を採取するプロジェクト。1957年にアメリカで提唱され、大陸移動説や温暖期と寒冷期を繰り返す地球の環境変動などが解明されました。現在は、世界で唯一マントルを掘ることができる日本の地球深部探査船「ちきゅう」を使った国際プロジェクトになり、遠い将来、地球が極度な寒冷期に入るのではないかという予想の検証などが行われています。

巽氏は、「1970年大阪万博で科学技術の進歩の象徴として月の石が展示されたように、2025年大阪・関西万博ではマントルの石を展示したい。その採取が間に合わなくても、日本でモホール計画が進んでいることを多くの人に知ってもらいたい」と述べました。



巽 好幸氏

East meets West!

交流サロン21cafe 中之島をミュージアム群島(アイランド)に育てよう

岩佐倫太郎氏(美術評論家) 2019年11月7日/中之島センタービル

2021年度に予定される大阪中之島美術館の開館は、中之島全体が「博物館島」(ミュージアム・アイランド)として整備される好機です。岩佐氏は、大阪市立東洋陶磁美術館(中国・韓国の陶磁)や中之島雪雪美術館(日本の伝統美術)、国立国際美術館(戦後の現代美術)に加えて、近代絵画を扱う新しい美術館ができることで、中之島が東西の美術と歴史を俯瞰した日本を代表する文化発信の島になると指摘。

また、幕末に日本から流出した浮世絵が影響を与えてヨーロッパの印象派絵画を生み出したことを力説。そこからゴッホ、ゴーギャンなどのポスト印象派やマチスらのフォービズムの登場、そして20世紀に入ってエコール・ド・パリと呼ばれるユトリロ、モディリアーニ、佐伯祐三ら大阪中之島美術館の収蔵作品へとつながる美術史を、画像を示しながら解説しました。



岩佐倫太郎氏

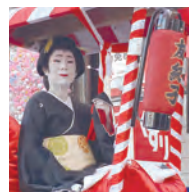
ほ え かご

当代の人気者が繰り出す新春の伝統行事 今宮戎神社十日戎「宝恵駕行列」

2020年1月10日/道頓堀(とんぼりリバーウォーク)～今宮戎神社

今宮戎神社「十日戎」の奉納行事として、大阪府無形民俗文化財に指定されている宝恵駕行列。「とんぼりリバーウォーク」での出発式の後、芸妓代表の友紀子さんを先頭に、歌舞伎俳優の中村鴈治郎さんや日本舞踊・山村流六世宗家の山村友五郎さん、OSK日本歌劇団の桐生麻耶さん、NHK連続テレビ小説『スカーレット』に出演中の福田麻由子さんが続き、沿道の歓声をあびながら2時間にわたりミナミの商店街を練り歩きました。

宝恵駕行列は、元禄時代に花街の集客や商売繁盛を祈願してはじまり、現在は地元商店会や経済界などの協力で、その伝統が受け継がれています。関西・大阪21世紀協会 上方芸能運営委員会は、このような大阪が誇る上方文化が2025年大阪・関西万博の時にも重要なコンテンツとなるよう、支援を続けていきます。



芸妓代表の友紀子さん



ミナミの商店街に繰り出す宝恵駕行列

第2回「なにわの企業が集めた絵画の物語」展



大阪・関西の企業が所蔵する絵画を集めた展覧会。マネ、ロートレック、藤田嗣治、岡本太郎が世界を代表する画家の作品43点を展示。子どもたちがアートに深く触れる「対話型鑑賞教育」も実施します。

ロートレック
『キャバレーのアリステイド・ブリュアン』(1893年)
サントリーポスターコレクション
(大阪中之島美術館準備室寄託)

1月24日(金)～2月15日(土)

10:00～20:00(月曜日休館・最終日は18:00まで)

大阪府立江之子島文化芸術創造センター / enoco
(大阪メトロ中央線・千日前線「阿波座駅」8番出口より徒歩約3分)

入場料：500円 中学生以下無料

主催：関西経済同友会 企業所有美術品展実行委員会
協力：京都造形芸術大学 運営協力：関西・大阪21世紀協会
お問合せ：アーツサポート関西 事務局
☎06-7507-2004 E-mail ask@osaka21.or.jp

改元記念シンポジウム

「大阪展望 古代首都なにわと八十島祭」

やそしま



文化庁 令和元年度「日本博イノベーション型プロジェクト」

平成から令和への御代替わりを機に、古代の大阪で行われていた天皇陛下の御即位を寿ぐ宮廷祭祀「八十島祭」の伝統を掘り起こし、輝けるなにわの歴史を再考。会場内で、和太鼓演奏や神楽、VR(バーチャル・リアリティ)を使ったプレゼンテーションなども実施します。



八十島祭「招霊」のパフォーマンス
(2019年7月7日・令和 OSAKA 天の川伝説2019にて)

3月27日(金) 13:30～16:30(予定)

松下IMPホール

(大阪メトロ長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク駅」4番出口より徒歩約1分)

参加料：1,500円(なにわの歴史を検証する冊子付)

主催：関西・大阪21世紀協会

登壇者(50音順)

岡田莊司氏(國學院大學名誉教授)
北川 央氏(大阪城天守閣館長)
玉岡かおる氏(作家、大阪芸術大学教授)
ロバート キャンベル氏(国文学研究資料館長)ほか

参加お申込み・お問合せ：産経新聞開発

☎06-6633-6834 FAX 06-6633-2709 E-mail yaso@esankei.com

※日本博…文化庁が推進する2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、総合テーマ「日本と自然」の下、「日本の美」を体現する美術展や舞台芸術公演、文化芸術祭などを全国で展開するプロジェクト。

インターナショナル和食フォーラム (関西・大阪文化力会議2020)

世界規模で取り組みを行なっているSDGsのすべてのゴールに深く関わる「食」をテーマに、日本の伝統文化である和食の魅力や現状を考察、発信します。



2017年開催の様子

参加
無料

4月23日(木) 14:00～17:30(予定)

大阪商工会議所・国際会議ホール

(大阪メトロ堺筋線・中央線「堺筋本町駅」より徒歩約7分)

主催：関西・大阪21世紀協会

登壇者(50音順)

小泉武夫氏(東京農業大学名誉教授)
辻 芳樹氏(学校法人辻料理学館理事長)
宗田好史氏(京都府立大学副学長)ほか

参加お申込み・お問合せ：関西・大阪21世紀協会 文化事業部

☎06-7507-2006 FAX 06-7507-5945 E-mail bunkaryoku@osaka21.or.jp

※本誌132号において、開催日を「2019年10月8日」とお伝えしましたが、上記に変更となりました。

※登壇者や開催時間等は、予告なく変更する場合があります。

関西・大阪21世紀協会賛助会員
入会のおお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費(何口からでも結構です)

■法人会員1口につき年会費10万円
■個人会員1口につき年会費1万円

特典

1.協会が発行する刊行物の配布
2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内
3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ(公財)関西・大阪21世紀協会 総務部